

1. 実況上の着目点

- ① 強い勢力の台風第25号が日本の東を北東進し、本州付近から遠ざかっている。台風周辺からのうねりが伝搬し、三陸沖ではしけを観測。
- ② 台風周辺の発達した雲域は陸上からすでに離れたが、伊豆諸島北部の大島町大島で観測史上1位となる48時間に832ミリの降水を観測するなど、21日は東日本太平洋側では記録的な大雨となった所がある。
- ③ 500hPa 5760m付近の強風軸対応の前線が、三陸沖から日本のはるか東にのびている。前線の



主要じょう乱解説図

影響や台風を回る北よりの湿った風の影響で、東北地方や北陸地方を中心に雨が降っている。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の台風は、日本の東を東北東へ進み、22日夜までに北緯40度付近で温帯低気圧に変わる。台風の影響で強い風が吹き、波がうねりを伴って高くなりしける所がある。北～西日本では22日は、強風や高波に注意。1項②の記録的な大雨の影響が残る関東甲信地方では、22日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に厳重に警戒。
- ② 1項③の前線は上層の流れに沿って東北東進。台風を回る北よりの風の影響も次第に弱まる。一方、取り残された相対的な暖気に起因して、22日夜までに低気圧が東海道沖付近に発生。低気圧の東側を回る南よりの風と、2項①の低気圧からのびる前線北側の東よりの風や23日に日本の東で顕在化する高気圧南側の東よりの風が収束して降水となる。また、24日は500hPa 5820m付近のトラフが本州付近を通過し、降水域が日本海側まで拡大。記録的な大雨で地盤の緩んでいる東日本太平洋側では、少しの雨量でも土砂災害の危険度が高まりやすいことに留意。
- ③ 23～24日は、南西諸島付近は気圧の谷となり、下層暖湿気が収束。下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。南西諸島では23～24日は、落雷、突風、急な強い雨に注意。
- ④ 24日は、500hPa 5580m付近で-21℃以下の寒気を伴うトラフと5700m付近で-18℃以下の寒気を伴うトラフが、北海道地方付近を通過する。これに対応する低気圧がオホーツク海を東進し、前線が北日本を通過する。上層寒気、低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。北日本では24日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

②波浪(明日まで)：東北・関東5、伊豆諸島4、その他広い範囲で3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 「台風第25号」を5時頃に発表予定。